

日立マクセルが誇る「モノづくり力」

～京から明日へ 本社機能移転でアナログコア技術を進化～



代表取締役 取締役会長 千歳 喜弘 氏

日立マクセルが 京都で生み出したモノ

当社は1961年2月に操業を開始しました。「マクセル」という社名は創業製品である乾電池のブランド名であり、“Maximum capacity dry cell”[最高の性能を持った乾電池]に由来します。当社の製造の要となる京都事業所は1967年の創業以来、マクセルの主要製品を数多く生み出してきました。音楽用カセットテープ、データ用カセットテープ、ビデオテープ、フロッピーディスク、コンピューターテープ、磁気カード、リチウムイオン電池などさまざまな製品が京都事業所で生み出され、世界初・国内初・業界初の技術力を誇るマクセルのアナログコア技術を培ってきました。

日立マクセルの「強み」とは

企業が持続的に成長していく上での原動力は技術力と考えています。その中で、当社にとってカギとなるのはアナログコア技術です。料理が味付けひとつでガラッと変わるように、製品も原材料や加工における差別化要素により他社が模倣できない製品へと変化します。アナログコア技術の最近の一例として、トップクラスのエネルギー密度を強みとするリチウムイオン電池技術[ULSiON(アルシオン)]があります。この技術は、負極中のシリコン電極材料の含有率を増やすことで従来品比約2倍のエネルギー密度という技術進化を実現しました。この技術をウェアラブル端末に応用することにより長時間稼働が可能となります。「誰もやらない、誰もできない、誰も追いつけない」分野で、アナログコア技術とモノづくり力を活かし、引き続き成長をはかりたいと思います。

京都事業所の役割とは

京都事業所の主力製品であるリチウムイオン電池は、スマートフォン用やゲーム機用のみならず、ウェアラブル端末向け、ドローン(無人航空機)向けをはじめ蓄電システムへの展開、車載用リチウムイオン電池電極の生産を行うなど、時代のニーズに応えた製品を世に送り出しています。さらに自動車用リチウムイオン電池向けの高機能・塗布型セパレーターや各種粘着テープの生産拠点として稼働し続けています。このように京都事業所は当社のマザー工場であり先端技術開発の中核と位置づけています。



EnergyStation C 本体



ラミネート形リチウムイオン電池

京都に本社機能を移転してさらなる進化を

当社は現在、「自動車」「住生活・インフラ」「健康・理美容」を成長分野と位置づけて、他社と差別化した一歩先の技術の開発に取り組んでいます。この成長戦略を遂行する目的で、高度な人材や技術が集積し国際的なオープンイノベーション拠点をめざし、先進的な取り組みを進めている京都の地に、2016年4月、開発統括本部を有する本社機能を移転しました。

さらに関西有力大学との人財・技術面での連携、本社管理機能と先端技術開発機能の融合による業務効率やサービスの向上をめざす上で京都はたいへん重要な地域です。東京本社との二本社制により、BCP*の充実もめざしてまいります。

また、当社の海外売上高比率が60%とグローバルに事業を展開しており、インフラにも恵まれた京の「地の利」を活かし成長戦略を加速することにより、今後も中長期的な視点で地域経済の活性化と雇用機会の創出に貢献していきたいと考えています。

エントランスホール



上空より

京から明日へ

世の中は、自動車における先進運転支援システムADAS**技術の開発、IoTやセンシングによるビッグデータの進展、ウェアラブル端末やロボットの実用化など、技術革新が劇的なスピードで進んでいます。当社はこうした新たな潮流を先取りし、ビジネスチャンスを掴んでいくため、京都本社にある開発統括本部において高容量、長寿命、高安全性、耐環境特性をもった特長あるリチウムイオン電池及び電子部品、自動車部品向けといった難易度の高い生産工程向け粘着テープなどの開発を進めており、今後もお客さまに喜ばれる製品を創出して世の中に貢献していきたいと思ひます。

*BCP(Business Continuity Plan:事業継続計画)

**ADAS(Advanced Driving Assistant System:先進運転支援システム)

お問い合わせ先

京都府中小企業技術センター 企画連携課 企画・情報担当 TEL:075-315-8635 FAX:075-315-9497 E-mail:kikaku@mtc.pref.kyoto.lg.jp